

令和3年度 千葉県資源評価対象種

1 評価対象種

キンメダイ、コノシロ、スズキ、ヒラメ、マコガレイ、マアナゴ、マダイ、アサリ、クロアワビ、メガイアワビ、サザエ、ダンベイキサゴ、チョウセンハマグリ、イセエビ、コウイカ及びマダコの計16種は評価票を作成し公開する。サヨリ、タチウオ、トラフグ、サトウガイ、バイ、ホンビノスガイ及びクルマエビの7魚種は評価票に準ずる資料を作成、アカカマス、アカムツ、イサキ、イシカワシラウオ、ムツ・クロムツ、シロギス、クロダイ、チダイ、ウチムラサキガイ、ナミガイ、マナマコ、サワラの計12魚種は漁獲量推移等の資料を作成し資源管理方策を検討するための資料とする（計35種）。

2 選定理由

資源評価対象種については、以下に示す「千葉県資源評価検討会議における資源評価基準」の「1 資源評価の対象とする水産資源の選定」の要件に基づき、下表のとおり選定した。

【資源評価基準による選定の要件】

- (1) 本県沿岸漁業の重要資源であること。
- (2) 既に資源管理計画や自主的な管理を含む資源管理の対象となるなど、資源管理の必要性が認識されていること。
- (3) 栽培漁業対象種や増殖場造成など、資源造成に係る取組が行われていること。
- (4) 資源評価に必要な漁獲統計情報及び生態的知見等があること。
- (5) 国際資源及び国の資源評価対象のうち回遊性の高い魚種は除く。

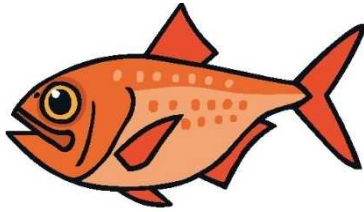
表 令和3年度評価対象種の一覧表

	魚種	選定の要件					選定理由等	総合 <sup>*10</sup> 判断			
		(1) <sup>*1</sup>		(2) <sup>*2</sup>	(3)	(4)		(5)	R2	R3	
		生産量 (トン)	金額 (百万円)	資源管理	資源造成	資源評価情報		国評価対象			
令和3年度資源評価対象魚種	キンメダイ	1,219	2,291	県指針・計画 地域計画(広域)		漁場ごとの CPUE	○ <sup>*3</sup>	(1)、(2)、 (4)に該当	A	A	
	コノシロ	1,838	96	県指針・計画(漁業)		漁獲量	○	(1)、(2)、 (4)に該当	A	A	
	スズキ	1,353	748	県指針・計画(漁業)		標本船 CPUE	○	(1)、(2)、 (4)に該当	A	A	
	ヒラメ	296	293	県指針・計画(漁業) 地域計画(広域)	種苗放流	資源量	○	(1)~(4)に 該当	A	A	
	マコガレイ <sup>*4</sup>	165	160	県指針・計画(漁業)	種苗放流	標本船 CPUE	○	(1)~(4)に 該当	A	A	
	マアナゴ <sup>*5</sup>	103	133	県指針・計画(漁業) 地域計画(地域)		標本船 CPUE	○	(1)、(2)、 (4)に該当	A	A	
	マダイ	236	247	県指針・計画(漁業) 地域計画(広域)	種苗放流	漁獲量	○	(1)~(4)に 該当	A	A	
	アサリ	65	29	県指針・計画(漁業) 地域計画(地域)	種苗放流	資源量	○	(1)~(4)に 該当	A	A	
	アワビ類	クロアワビ	48	787	県指針・計画 地域計画(地先)	種苗放流 増殖場	CPUE	○	(1)~(4)に 該当	A	A
	メガイアワビ	38	342	県指針・計画 地域計画(地先)	種苗放流 増殖場	CPUE	○	(1)~(4)に 該当	A	A	
	サザエ	231	196	県指針・計画(漁業) 地域計画(地先)	母貝放流	CPUE	○	(1)~(4)該 当	A	A	

魚種	選定の要件							選定理由等	総合 <sup>※10</sup> 判断	
	(1) <sup>※1</sup>		(2) <sup>※2</sup>	(3)	(4)	(5)	R 2		R 3	
	生産量 (トン)	金額 (百万円)	資源管理	資源造成	資源評価情報	国評価 対象				
ダンベイキサゴ	109	82	地域計画(地域)	種苗放流	漁獲量	×	(1)、(4)に 該当	A	A	
チョウセンハマグリ	1,430	1,207	地域計画(地域)	種苗放流	漁獲量	×	(1)～(4)に 該当	A	A	
イセエビ	198	741	県指針・計画 地域計画(地域)	増殖場	CPUE	○	(1)～(4)に 該当	A	A	
コウイカ <sup>※6</sup>	15	19	県指針・計画(漁業)	産卵床設 置	標本船 CPUE	×	(1)～(4)該 当	B	A	
マダコ	159	162	県指針		CPUE	○	(1)、(2)、 (4)に該当	A	A	
サヨリ <sup>※6</sup>	35	23	県指針・計画(漁業)	産卵床設 置	漁獲量	×	(1)～(3)に該当 (4)に不足	B	B	
タチウオ	282	102			漁獲量	○	(1)に該当 (4)に不足	B	B	
トラフグ <sup>※6</sup>	26	73		試験放流	漁獲量	×	(1)～(3)に該当 (4)に不足	B	B	
サトウガイ	0	0	地域計画(地域)		漁獲量	×	(2)に該当 (4)に不足	B	B	
バイ	2	1		産卵基質 設置 試験放流	漁獲量	×	(3)に該当 (4)に不足	B	B	
ホンビノスガイ	1,887	282	県指針・計画(漁業) 地域計画(地域)		漁獲量	×	(1)に該当 (4)に不足	B	B	
クルマエビ	2	14	地域計画(地域)	種苗放流	漁獲量	○	(1)～(3)に該当 (4)に不足	B	B	
アカカマス <sup>※7</sup>	41	42	県指針・計画(漁業)		漁獲量	○	(1)、(2)に該当 (4)に不足	—	C	
アカムツ	16	60	県指針・計画(漁業)		漁獲量	×	(1)、(2)に該当 (4)に不足	—	C	
イサキ	153	78			漁獲量	○	(1)に該当 (4)に不足	C	C	
イシカワシラウオ	0	0	県指針・計画(漁業)		漁獲量	×	(2)に該当 (4)に不足	—	C	
シロギス <sup>※6</sup>	30	64	県指針・計画(漁業)		漁獲量	×	(1)、(2)に該当 (4)に不足	—	C	
タイ 類	クロダイ	78	111			漁獲量	×	(4)に該当	C	C
	チダイ	81	24	県指針・計画(漁業)		漁獲量	×	(1)、(2)に該当 (4)に不	C	C
ムツ・クロムツ <sup>※9</sup>	52	96	県指針・計画(漁業)		漁獲量	×	(1)、(2)に該当 (4)に不足	—	C	
ウチムラサキガイ	8	3	県指針・計画(漁業)		漁獲量	×	(1)、(2)に該当 (4)に不足	—	C	
ナミガイ	69	47	県指針・計画(漁業)		漁獲量	×	(1)、(2)に該当 (4)に不足	—	C	
マナマコ <sup>※8</sup>	52	43	県指針・計画(漁業)		漁獲量	○	(1)、(2)に該当 (4)に不足	—	C	
サワラ	408	425	県指針・計画(漁業)		漁獲量	○	(1)、(2)、 (5)に該当	D	D	

- ※1 (1)漁獲情報(トン、百万円)は主に R1 農林水産統計年報、キンメダイ(金額は推定値)・ホンビノスガイ・アワビ類(クロアワビ、メガイアワビ)、九十九里貝類(サトウガイ、チョウセンハマグリ及びダンベイキサゴ)・バイは R1 県調べ
- ※2 (2)資源管理の「県指針・計画」は県資源管理指針(以下、「県指針」という)及び県指針による資源管理計画、「地域 計画」は前述の計画以外での自主的な資源管理の計画等(非明文含む)を指す。計画の各範囲は「(漁業)」は、県指針で魚種別又は漁業種類別のいずれかの対象となっているが、計画では漁業種類別の対象となっているものを指す。「(広域)」は、千葉県含む複数県で、「(地域)」は県内全域又は一部地域で、「(地先)」は各漁協等の計画等で資源管理が行われているもの。
- ※3 キンメダイは平成 28 年度から国による資源評価が実施されているが、回遊の範囲が限定的であることから引き続き県においても各漁場での資源評価を行う。
- ※4 マコガレイの生産量・金額は「かれい類」の数値であり、マコガレイのみの数値の場合には大きく減少する。
- ※5 マアナゴの生産量・金額は「あなご類」の数値。
- ※6 コウイカ・サヨリ・トラフグ・シロギスの生産量・金額は一部の漁協を除く数値。
- ※7 アカカマスの生産量・金額は明確に「アカカマス」として区分されている一部漁協の数値。
- ※8 マナマコの生産量・金額は漁獲情報DBによるが、銚子市漁協は全てオキナマコと考えられるため除外。
- ※9 ムツ・クロムツの生産量・金額は「ムツ」「クロムツ」「ムツ類」を対象に集計。
- ※10 総合判断:  
 R2 A:評価対象、B:評価・管理が必要と考えられるが知見、漁獲情報が不足、  
 C:評価・管理が可能か、また必要があるか不明、D:県での評価、管理は困難  
 R3 A:評価票作成のための漁業情報及び資源情報が得られている(評価票を作成)  
B:評価票作成のための漁業情報及び資源情報が一部不足(評価票に準ずる資料を作成)  
C:評価票作成のための漁業情報及び資源情報が不足(漁獲量推移等の資料を作成)  
D:県での評価、管理の優先順位が高くない。または困難  
(サワラについては国による資源評価が公表されるまで暫定的に漁獲量推移等の資料を作成)

# キンメダイ



- ・水深 200~800m の海山や陸棚縁辺部に生息し、県内では銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場で立縄（釣り）により漁獲される。
- ・満 2 歳で尾叉長 19cm 体重 180g に達した後、4 歳で 27cm 430g、10 歳で 35cm 1,050g に達する。
- ・産卵期は 6~8 月。

## 資源評価

### 銚子沖

水準：高位

動向：増加



### 勝浦沖

水準：高位

動向：増加



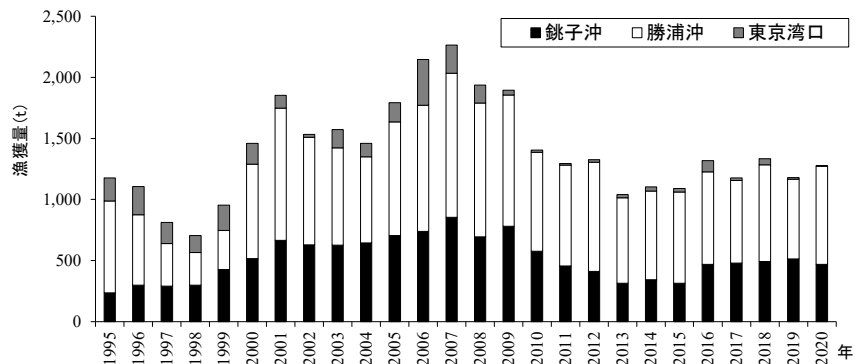
### 東京湾口

水準：低位

動向：減少



## 漁獲量



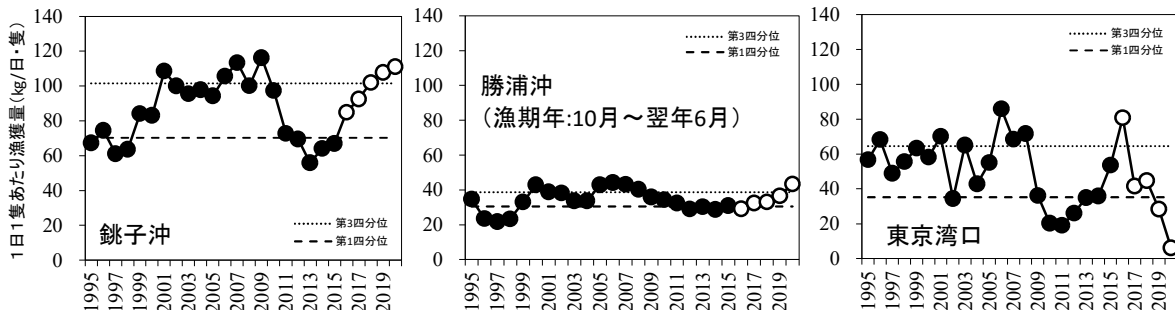
キンメダイの漁場別漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

- ・千葉県全体の漁獲量は 1999 年から増加し、2007 年には最大の 2,263t が漁獲された。
- ・2007 年以降の漁獲量は各漁場とも減少してきたが、2016 年以降は 1,200t 前後で横ばい傾向にあり、2020 年は 1,276t であった。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。  
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・資源水準及び動向は、漁場ごとに 1995 年以降の立縄漁業の CPUE (1 日 1 隻当たりの漁獲量) で判断した。
- ・2020 年の資源水準は、銚子沖は高位、勝浦沖は高位、東京湾口は低位水準にある。最近 5 か年の動向は、銚子沖及び勝浦沖では増加傾向、東京湾口では減少傾向にある。



銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場における立縄漁業による 1 日 1 隻あたり漁獲量の経年変化

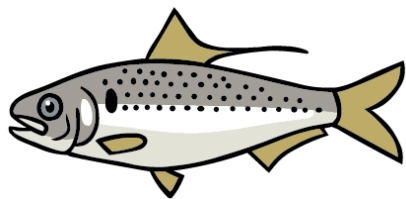
## 資源管理の取り組み

- ・漁場ごとに小型魚の再放流（銚子沖・勝浦沖全長 25 cm 以下、東京湾口全長 22 cm 以下）、針数・縄数の制限、休漁日の設定などの自主的な資源管理を実践している。

## 備考

- ・東京湾口漁場では 2009 年以降、漁業者の高齢化等により着業隻数が減少している。
- ・国の実施した資源評価では、関東沿岸から伊豆諸島周辺海域における 2020 年の資源水準は低位、動向は横ばいと判断されている。

## コノシロ（東京湾）



- ・ 漁獲のほとんどが東京湾で、中・小型まき網などで漁獲される。
- ・ 産卵期は4～7月で、産卵場は当初は東京湾の湾口部に形成され、次第に湾奥へ広がる。

### 資源評価

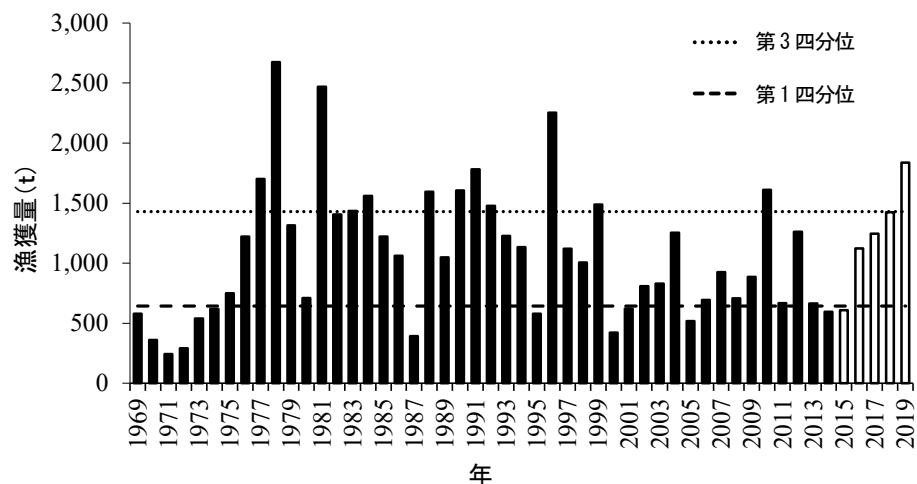
水準：高位



動向：増加



### 漁獲量



### 東京湾におけるコノシロ漁獲量の経年変化

2006年までは千葉農林水産統計年報、2007年以降は千葉県調べ

東京湾におけるコノシロの漁獲量は年変動が大きく、1978年に2,674tを記録したが、その後、増減を繰り返している。2013～2015年に600t前後で推移した後、増加傾向となり、2019年は1,838tに増加した。

### 資源評価の判断

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（漁獲量）から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

- ・ 資源水準及び動向は、1969年以降の漁獲量で判断した。
- ・ 長期的に大きく変動する傾向にあるが、2019年の資源水準は過去51年間で高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。

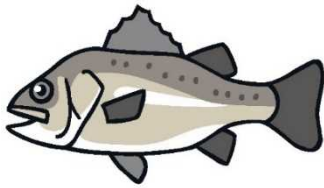
### 資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、作業時間の制限、漁具の制限など、中・小型まき網で冬期の休漁期間の設定など、コノシロ以外の魚種も含めて漁業者による自主的な資源管理が行われている。

### 備考

- ・ 東京湾A漁協における中・小型まき網による2020年の漁獲量は、データが得られている2004年以降で最も多かった2019年を下回るものの、2018年を大きく上回っている。このことから、資源水準は2020年も高い水準を維持すると見込まれる。

# スズキ（東京湾）



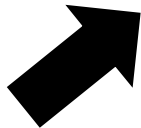
- ・ 漁獲のほとんどが東京湾内湾・内房海域で、中・小型まき網、小型機船底びき網などで漁獲される（千葉県は全国1位）。
- ・ 東京湾における産卵期は10月下旬～3月上旬で、産卵場は東京湾の湾口部にある。
- ・ 1983年から1998年まで種苗放流を実施し、以降休止。

## 資源評価

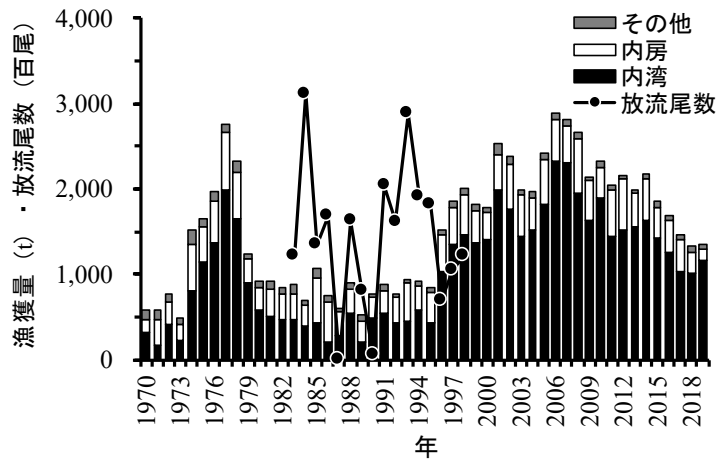
水準：高位



動向：増加



## 漁獲量



### すずき類漁獲量と放流尾数の経年変化

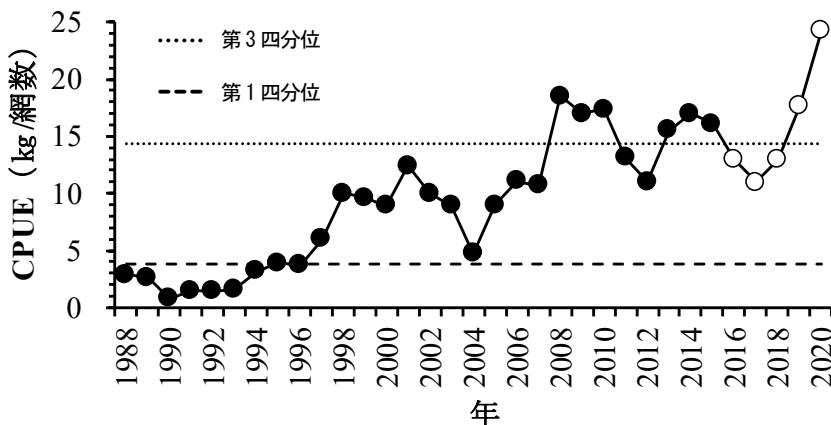
2006年までは千葉農林水産統計年報、2007年以降は千葉県調べ

千葉県におけるすずき類の漁獲量は、1990年代後半に著しく増加し、2006年に過去最高の2,886tとなった後、減少傾向にある。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2020年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。

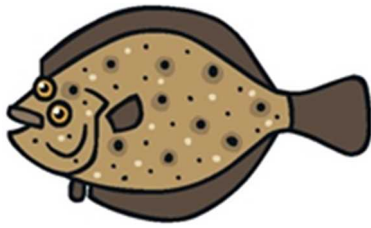


小型機船底びき網の標本漁船によるスズキの1網当たり漁獲量(kg/網数; CPUE)の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、中・小型まき網で冬期の休漁期間の設定など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

# ヒラメ



- ・ 砂浜域に生息し、銚子～富津の沿岸で小型機船底びき網、刺網、定置網などにより漁獲される。
- ・ 1歳で全長35cm、2歳で45cm 体重1kgに成長し、3歳以降は雌雄差が拡大し、5歳では雄が60cm 体重2.3kgに対して雌では70cm 体重3.9kgに達する。
- ・ 産卵期は3～6月。
- ・ 1982年から種苗放流を実施。
- ・ 漁獲量変動・移動特性等から、勝浦市以北は太平洋北部系群、鴨川市以南は太平洋中部系群に区分される。

## 資源評価

**太平洋北部系群**  
(勝浦市以北)

水準：低位  
動向：減少

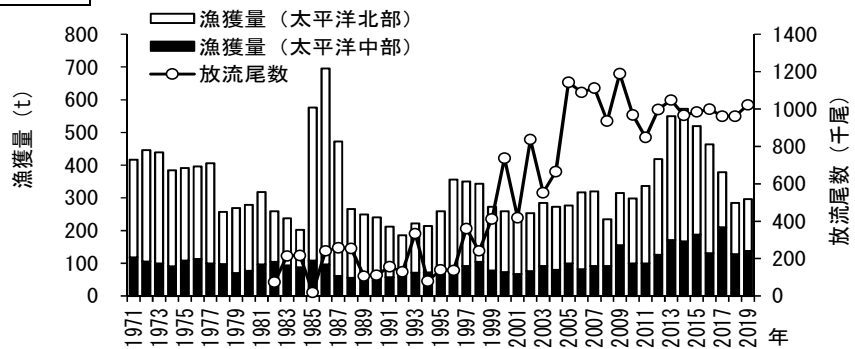


**太平洋中部系群**  
(鴨川市以南)

水準：中位  
動向：減少



## 漁獲量



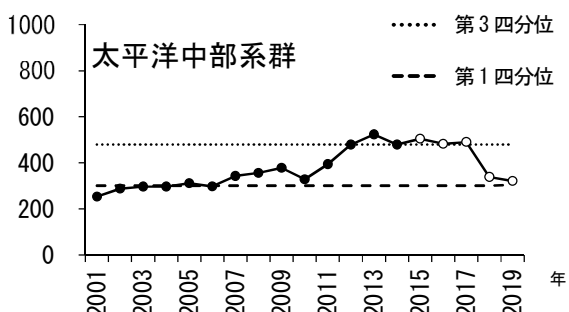
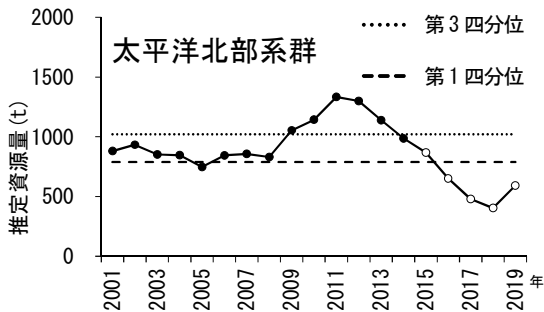
千葉県におけるヒラメ漁獲量と放流尾数の経年変化  
(漁獲量は千葉県農林水産統計，漁業・養殖業生産統計)

1971年以降、漁獲量が一時的に増加した1985～1987年及び2013～2015年を除き、300t前後で推移した。2019年は296t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(資源量)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲物測定、統計から推定される1歳魚以上の資源量で判断した。
- ・ 2019年の資源水準は太平洋北部系群で低位、太平洋中部系群で中位水準にある。最近5年間の資源動向は両系群で減少傾向となった。

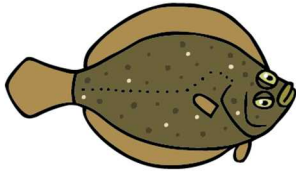


太平洋北部系群及び太平洋中部系群における推定資源量の経年変化

## 資源管理の取り組み

小型魚(全長30cm未満、底びき網は25cm未満)の再放流や漁具設置時間の制限など、漁業者の自主的な資源管理が行われている。また、関係機関が連携し、種苗放流を行っている。

# マコガレイ（東京湾）



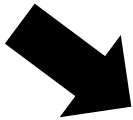
- ・ 東京湾においては、内湾から内房海域で、小型機船底びき網、刺網で漁獲される。
- ・ 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- ・ 1991年から種苗放流が行われている。

## 資源評価

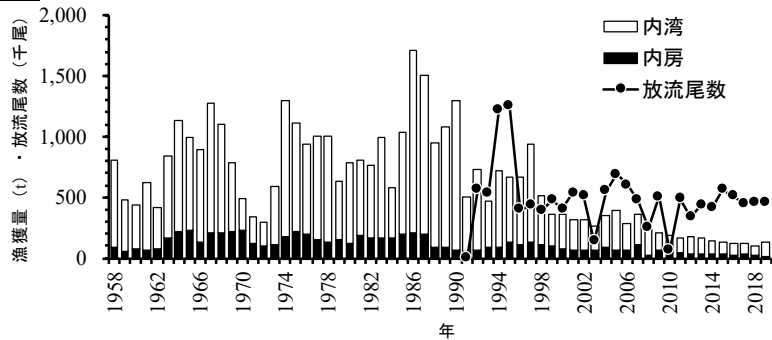
水準：低位



動向：減少



## 漁獲量



かれい類漁獲量と放流尾数の経年変化

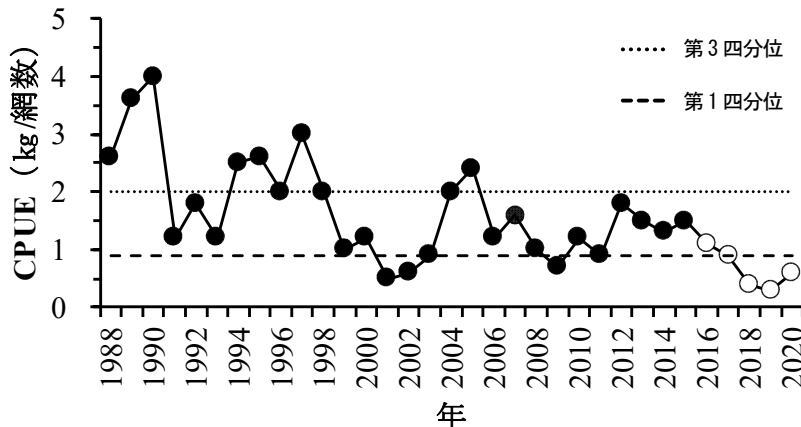
2006年までは千葉農林水産統計年報、2007年以降は千葉県調べ

東京湾におけるかれい類の漁獲量は、1970年代まではイシガレイ主体で、その後、マコガレイ主体となった。長期的には減少傾向にあり、1980年代後半から1990年までは1,000tを超える水揚げがあったが、近年は100~130t程度で低迷している。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。
- ・ 2020年の資源水準は低位、最近5年間の資源動向は減少傾向にある。



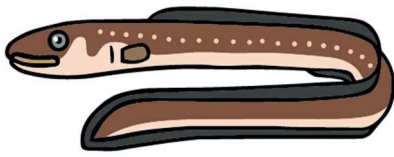
小型機船底びき網の標本漁船によるマコガレイの1網当たり漁獲量(kg/網数; CPUE)の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定及び漁具の制限による漁獲圧の抑制、稚魚や産卵親魚を保護するための禁漁区設定、県と共同した稚魚分布調査など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1991年から県による種苗放流が行われている。



# マアナゴ



- ・ 東京湾においては、あなご筒、小型機船底びき網で、銚子・九十九里においては、沖合底びき網、小型機船底びき網、延縄で漁獲される。
- ・ 産卵場は、沖ノ島島南方の九州ーパラオ海嶺上で、葉形仔魚（通称：のれそれ）が日本沿岸に来遊する。

## 資源評価

### 東京湾

水準：低位



動向：不明（※）



※近年の資源水準は低水準であり、現在、集計対象の標本漁船ではマアナゴを目的とした操業がほとんど行われていないことから、最近5年間の1網当たり漁獲量の変化は資源動向を的確に表していない可能性があり、不明とした。

### 銚子・九十九里

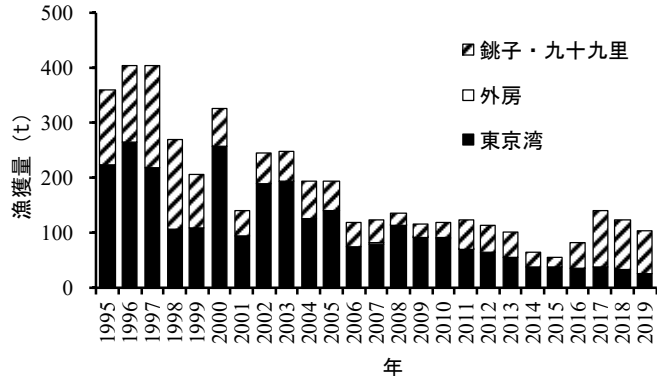
水準：高位



動向：増加



## 漁獲量



### あなご類漁獲量の経年変化

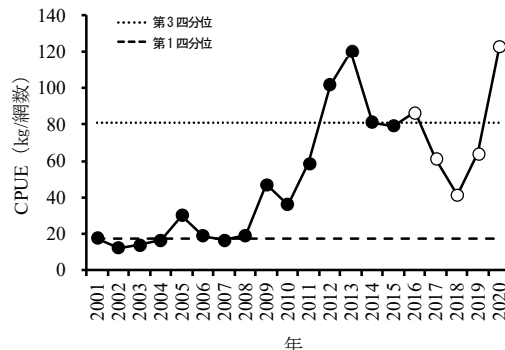
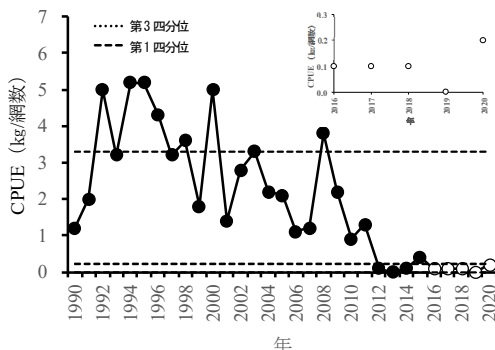
2006年までは千葉農林水産統計年報、2007年以降は千葉県調べ

千葉県におけるあなご類の漁獲量は、1998年以降、減少傾向で、近年は東京湾では30トン前後で低水準であるのに対し、銚子・九十九里では80~100トン程度で増加傾向にある。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網（東京湾）又は沖合底びき網（銚子・九十九里）の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2020年の資源水準、最近5年間の資源動向は、東京湾では低位、不明（※）、銚子・九十九里では高位、増加傾向にある。



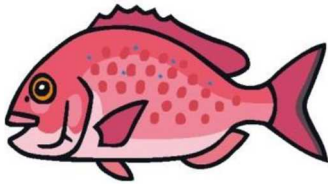
東京湾における小型機船底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化

銚子地区における沖合底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限及び漁具の制限、あなご筒で水抜き穴の拡大による小型魚の保護など、銚子・九十九里においては、小型機船底びき網で改良漁具導入による小型魚の保護など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

# マダイ



- ・ 海底が起伏に富んだ岩盤または砂礫質の水域に生息し、銚子～富津の沿岸で小型機船底びき網、刺網、定置網、釣りなどにより漁獲される。
- ・ 尾叉長は1歳で16cm, 2歳で24cm, 3歳で31cmとなり、体重は4歳で1kgを上回り、6歳で2kgを超える。
- ・ 産卵期は3～6月。
- ・ 1982年から種苗放流を実施。

## 資源評価

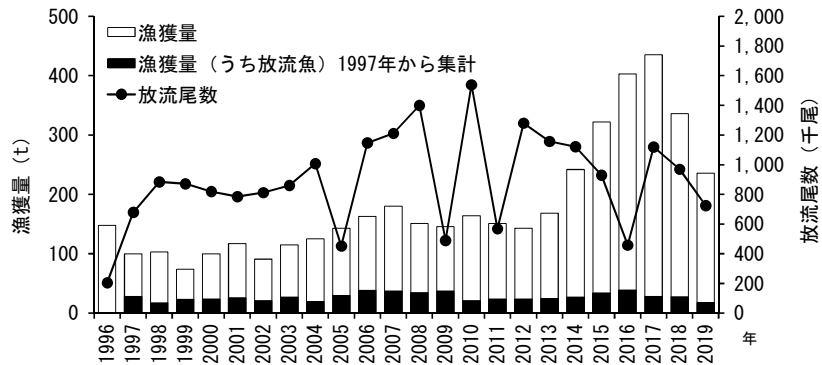
水準：高位



動向：減少



## 漁獲量



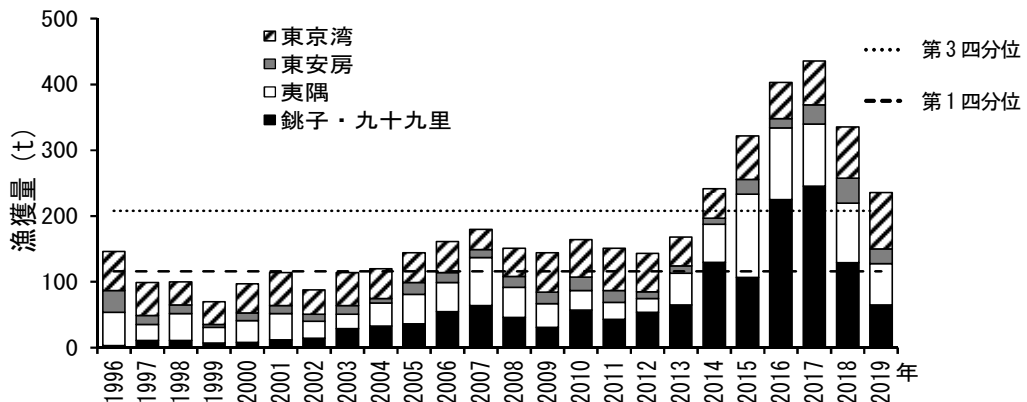
千葉県におけるマダイ漁獲量と放流尾数の経年変化  
(漁獲量は千葉農林水産統計, 漁業・養殖業生産統計)

- ・ 1996年以降100～200トン前後で推移し、2014年以降は増加に転じ、2017年は過去最大の435tが漁獲された。
- ・ 2019年は236t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲量の推移から判断した。
  - ・ 2019年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は減少傾向となった。
- ※ 2015年以降、銚子・九十九里海域の漁獲量が、資源水準及び動向に大きく影響していると考えられる。



マダイの海域別漁獲量の経年変化  
(千葉県調べ)

## 資源管理の取り組み

- ・ 小型魚(全長20cm以下)の再放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。
- ・ 漁業者と関係機関が連携し、種苗放流を実施している。

# アサリ



- ・ 東京湾では主に潮間帯から潮下帯の水深 5m 前後までに分布。三番瀬、盤洲干潟、富津干潟では腰巻きや大捲き漁業、富津岬周辺の沖合域では潜水器漁業で漁獲される。
- ・ 成長は漁獲サイズとなる殻長 27 mm以上までに 1~2 年かかる。
- ・ 産卵の盛期は春と秋。

## 資源評価

### 三番瀬

水準：低位



動向：減少



### 盤洲干潟

水準：低位



動向：減少



### 富津干潟

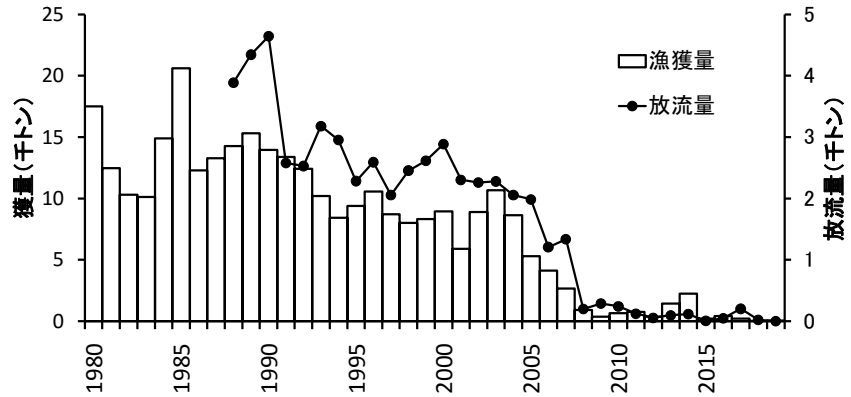
水準：低位



動向：減少



## 漁獲量



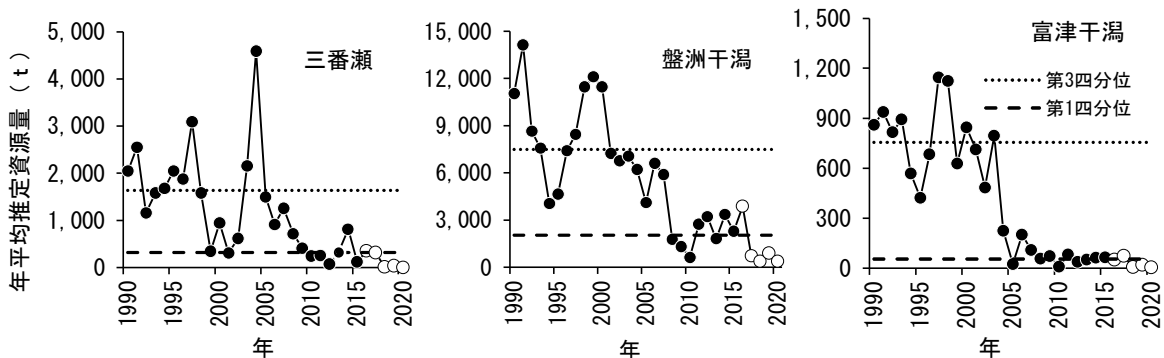
アサリ漁獲量(農林水産統計年報)と放流量の経年変化

千葉県のアサリ漁獲量は 1980 年代には概ね 1 万 t 台で増減し、1990 年代には漸減傾向で推移した。その後、2003~2009 年に大きく減少、2015 年以降は 100 t を下回る年が多くなっている。また、放流量と漁獲量は同調しており、本県の漁獲の維持には放流が重要な役割を果たしていたものと考えられる。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (推定資源量) から 4 分位により評価した。  
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁協と県が実施した漁場ごとの資源量調査結果から判断した。(各漁場で分布調査を行い、殻長 27 mm以上を対象に資源量を推定した)
- ・ 2020 年の資源水準は、三番瀬、盤洲干潟、富津干潟のいずれも低位水準にある。最近 5 年の動向は、三番瀬、盤洲干潟、富津干潟とも減少傾向にある。



主要漁場における推定資源量の経年変化(殻長 27 mm以上)

### **資源管理の取り組み**

- ・ 2007 年に出現したカイヤドリウミグモやツメタガイ等の害敵生物の駆除，囲い網の設置による漁場の保護などを行っている。
- ・ 強波浪でアサリが洗掘され，資源の減耗に至ることから，試験的に竹柵やパイプの設置，碎石による覆砂などを実施し，影響軽減に努めている。
- ・ 三番瀬では青潮による漁業被害の軽減を図るために，覆砂による漁場のかさ上げを実施している。

# クロアワビ



- ・ 沿岸の岩礁域（メガイアワビより浅い）に生息し、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
- ・ 4～5歳で制限殻長の12 cm(230g 前後)に達する。
- ・ アワビ類の産卵期は10月～翌年1月。
- ・ 1968年から種苗放流が行われている。
- ・ 2021年の調査対象地区※一般漁場における放流貝の混入率は、2～15%。

※ 漁獲物調査を実施している千倉2地区、鴨川1地区、勝浦1地区。

## 資源評価

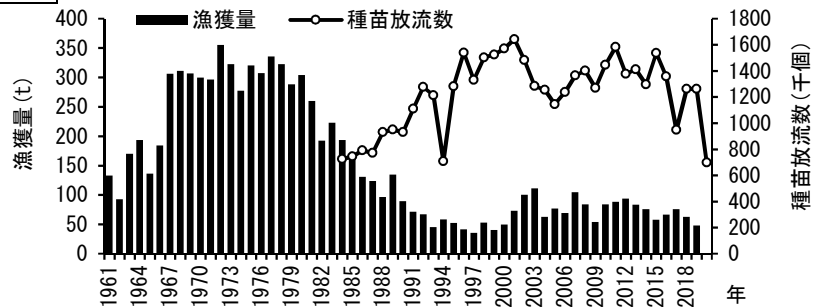
水準：低位



動向：減少



## 漁獲量



クロアワビ漁獲量及び種苗放流数の経年変化

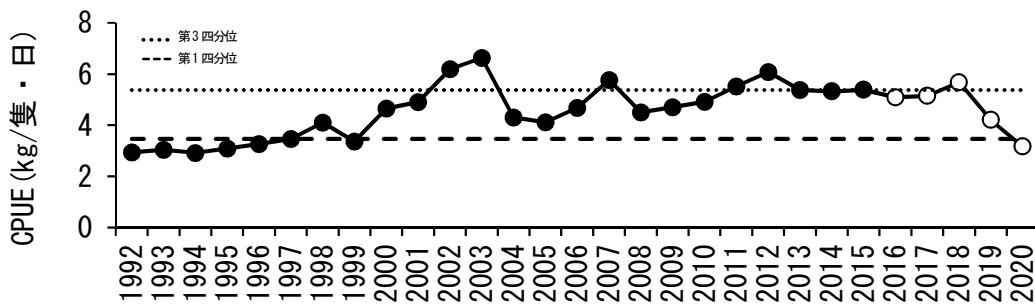
(漁獲量は千葉県調べ、種苗放流数は栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国))

- ・ 最大は1972年の355 t、最小は1997年の35 t。
- ・ 2019年は48 t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区一般漁場における素潜り漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2020年の資源水準は過去29年間で低位、最近5年間の資源動向は減少傾向にある。



クロアワビ主要地区一般漁場素潜り漁業 CPUE の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 千葉県漁業調整規則で制限殻長(12 cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(9/16～3/31)が定められている。
- ・ 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策、禁漁区、輪採方式の導入及び稚貝保護区の設定等、漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

# メガアワビ

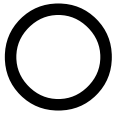


- ・ 沿岸の岩礁域（クロアワビより深い）に生息し、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
- ・ 4～5歳で制限殻長の12cm(210g前後)に達する。
- ・ アワビ類の産卵期は10月～翌年1月。
- ・ 1968年から種苗放流が行われている。
- ・ 2021年の調査対象地区※一般漁場における放流貝の混入率は、3～16%。

※ 漁獲物調査を実施している千倉2地区、鴨川1地区、勝浦1地区。

## 資源評価

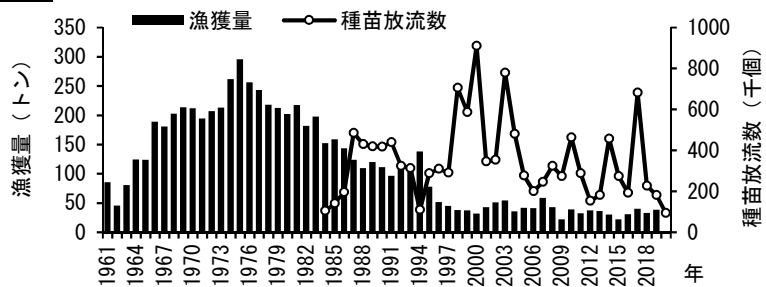
水準：中位



動向：横ばい



## 漁獲量



メガイアワビ漁獲量及び種苗放流数の経年変化

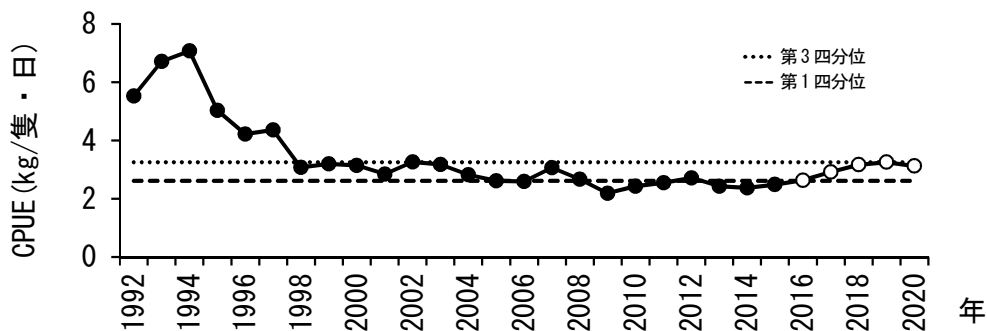
(漁獲量は千葉県調べ、種苗放流数は栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国))

- ・ 最大は1975年の295t、最小は2009年の22t。
- ・ 2019年は38t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区一般漁場における素潜り漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2020年の資源水準は過去29年間で中位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向にある。



メガイアワビ主要地区一般漁場素潜り漁業 CPUE の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 千葉県漁業調整規則で制限殻長(12cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(9/16～3/31)が定められている。
- ・ 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策及び禁漁区の設定等、漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

# サザエ



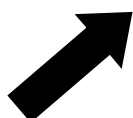
- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に内房～外房地区で刺網，見突き，素潜りにより漁獲される。
- ・ 3～4歳で制限殻高の7cm(90g前後)に達する。
- ・ 産卵期は5～9月。

## 資源評価

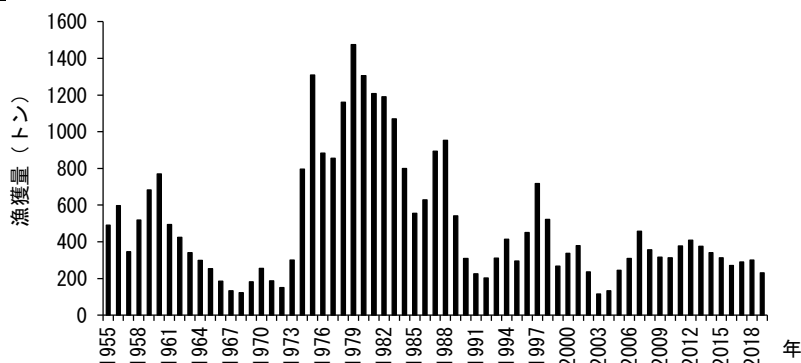
水準：高位\*



動向：増加



## 漁獲量



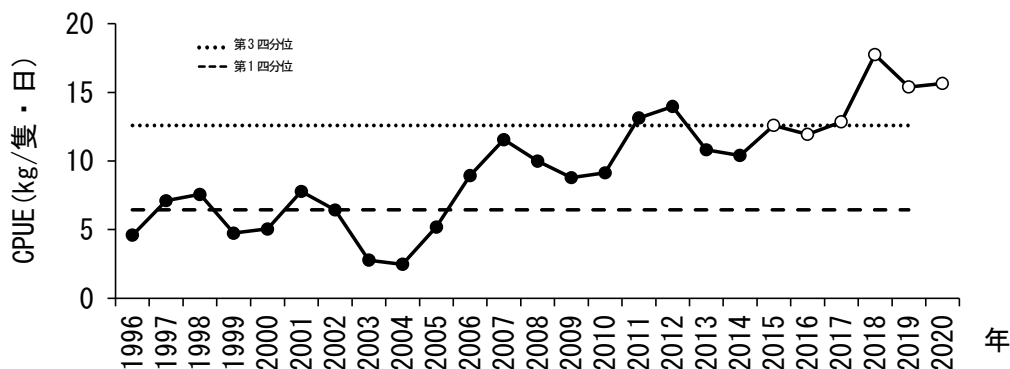
サザエ漁獲量の経年変化  
(千葉農林水産統計年報, 漁業・養殖業生産統計)

- ・ 最大は1979年の1474 t, 最小は2003年の116 t。
- ・ 2019年は231t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区の刺網漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2020年の資源水準は最近25年間の高位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。
- ※ 評価期間内のデータから判断される資源状況は「高位」であるが、それ以前の資源水準(CPUE)は漁獲状況等から現在を上回っていたものと考えられる。



サザエ主要地区刺網漁業 CPUE の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 千葉県漁業調整規則で制限殻高(7cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(6/1～6/30)が定められている。
- ・ 操業期間の制限など、漁業者による自主的な管理が行われている。

# ダンベイキサゴ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、九十九里では貝けた網、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による底びき網）により漁獲される。
- ・ 1歳で殻径約1.2cm、2歳で2.3cmに成長し、3歳で3.0cmとなり、寿命は5年以上と考えられ、3.5cmを超えるものも漁獲される。
- ・ 産卵期は4月～6月、11月末～翌年1月。

## 資源評価

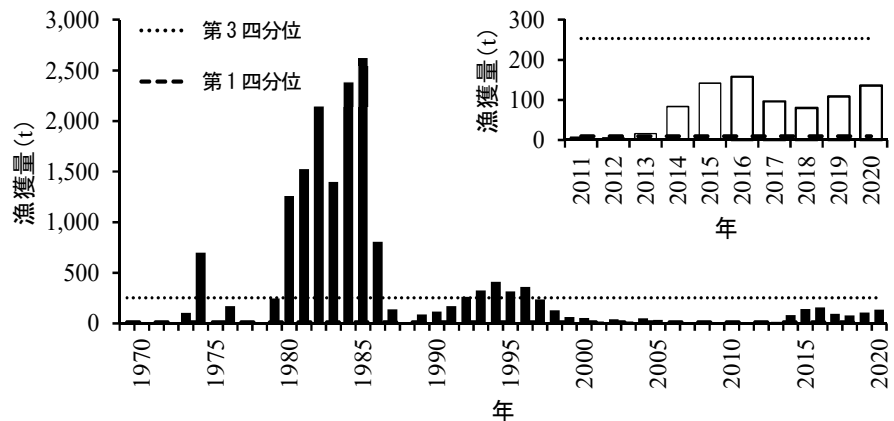
水準：中位



動向：横ばい



## 漁獲量



ダンベイキサゴ漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

- ・ 1970年代は、1974年を除き低位から中位で推移していたが、1980年代には1,000t以上に増加し、1986年まで高位で推移していた。
- ・ 1988年には10tまで減少したが、再び増加し、1994年には400t以上の漁獲があった。その後再び減少がみられ、2012年まで低位で推移していたが、2014年以降増加し、2020年は131t漁獲された。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2020年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向となった。

## 資源管理の取り組み

- ・ 貝けた網漁業では共同操業による水揚げプール制、操業隻数・日数の制限、網目・漁獲サイズの制限、禁漁期の設定など、漁業者が自主的な資源管理に取り組んでいる。



# チョウセンハマグリ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、九十九里では貝けた網、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による底びき網）により漁獲される。
- ・ 1歳で殻長約1cm、2歳で3~4cm（7~16g）に成長し、3歳で5~6cm（31~54g）となり、寿命は10年以上で10cm（250g）を超えるものも漁獲される。
- ・ 産卵期は6月下旬~9月。

## 資源評価

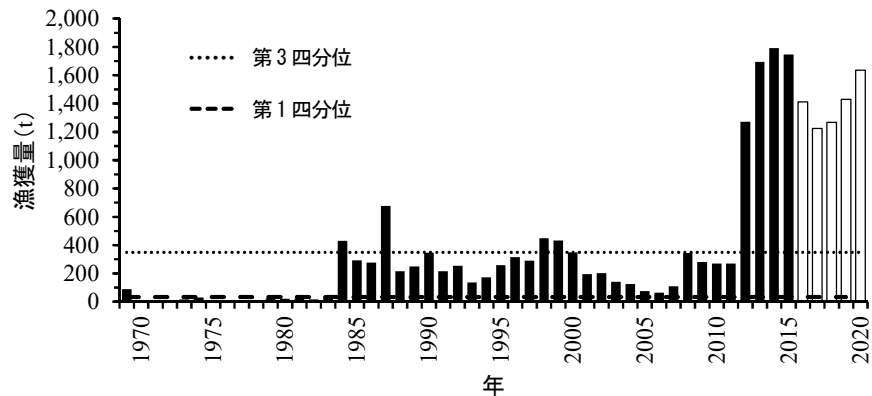
水準：高位



動向：増加



## 漁獲量



## チョウセンハマグリ漁獲量の経年変化

(2006年まで千葉農林水産統計年報, 2007年から千葉県調べ)

- ・ 1969~1983年は低位で推移していたが、1984~2011年は70~660tで増減を繰り返し、2012年に急増して以降、1,000t以上の漁獲が続いている。
- ・ 2012年は、2009年生まれの卓越年級群の加入により漁獲が急増したと考えられる。
- ・ 2009年以降に生まれた貝の加入も確認されている。
- ・ 2020年は1,637t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2020年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は増加傾向となった。

## 資源管理の取り組み

- ・ 貝けた網漁業では共同操業による水揚げプール制、操業隻数・日数の制限、網目・漁獲サイズの制限、禁漁期・資源保護区域の設定、小型貝の沖出し放流など、漁業者が自主的な資源管理に取り組んでいる。

# イセエビ



- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に外房地区で刺網により漁獲される。
- ・ 2歳で制限体長の13 cm(80g 前後)に達する。
- ・ 産卵期は5~9月。

## 資源評価

水準：高位

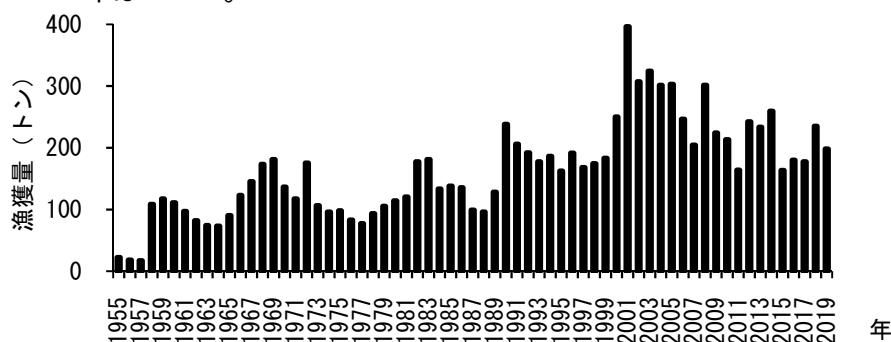


動向：増加



## 漁獲量

- ・ 1955年以降緩やかな増加傾向にあり、2001年は過去最大の396 tとなった。
- ・ 2019年は198 t。

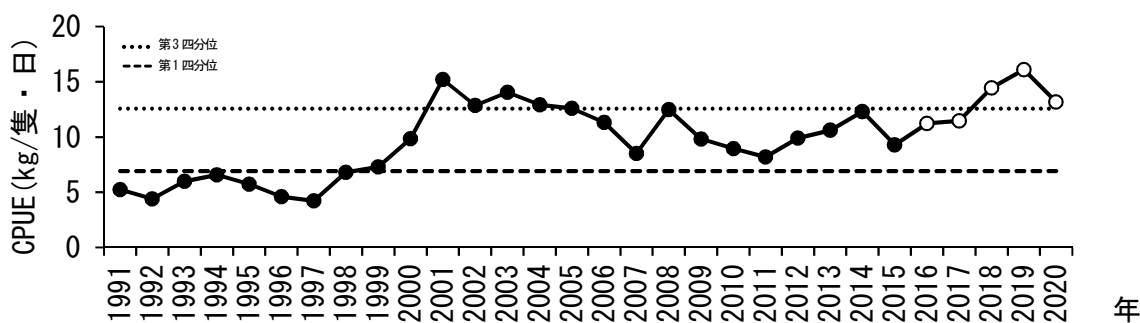


イセエビ漁獲量の経年変化  
(千葉県農林水産統計年報、漁業・養殖業生産統計)

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区刺網漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2020年の資源水準は最近30年間の高位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



イセエビ主要地区刺網漁業 CPUE の経年変化

## 資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で制限全長(13 cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(6/1~7/31)が定められている。
- ・ 漁具(刺網の使用反数)の制限、操業時間の制限、小型個体の再放流等、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

# コウイカ（東京湾）



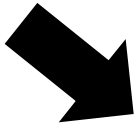
- 千葉県沿岸では、主に東京湾内湾南部～内房北部で小型機船底びき網により漁獲される。
- 東京湾における産卵期は春季で、アマモ類や海藻類などに産卵する。
- 寿命は約1年で、産卵後に死亡するため、夏季にはほとんど漁獲がみられなくなる。

## 資源評価

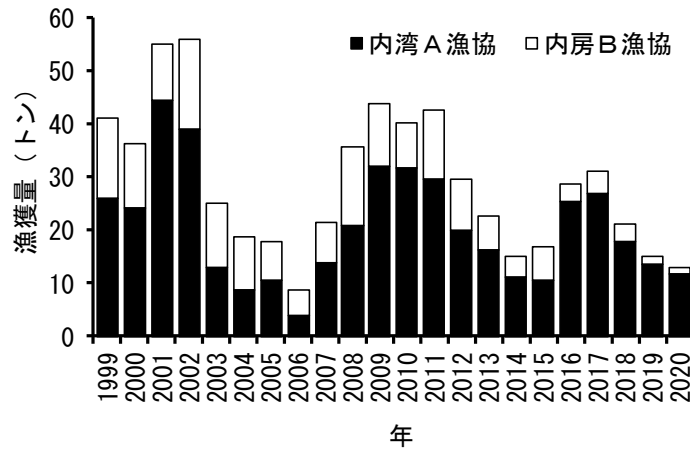
水準：中位



動向：減少



## 漁獲量



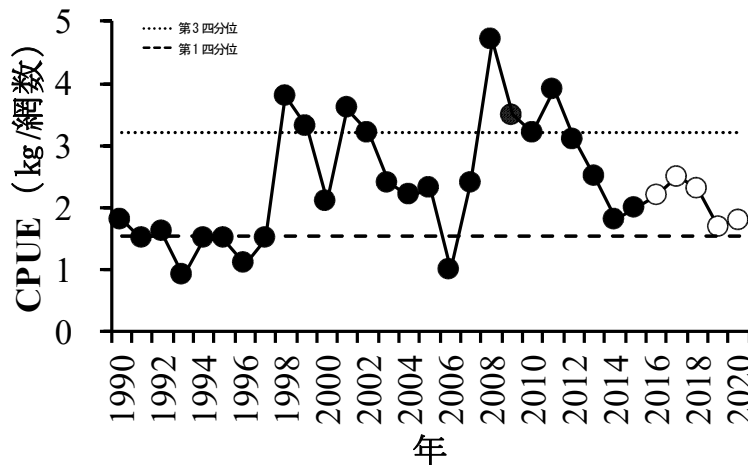
東京湾の主要2漁協におけるコウイカ漁獲量（千葉県調べ）

東京湾の主要2漁協におけるコウイカ漁獲量は、1999年以降増減を繰り返し、近年では2017年に31トンとなった後、減少傾向にある。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- 2020年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は減少傾向となった。



小型機船底びき網の標本漁船によるコウイカの1網当たり漁獲量 (kg/網数; CPUE) の経年変化

## 資源管理の取り組み

- 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コウイカ以外の魚種も含めて、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1996年から漁業者による産卵床の設置が行われている。

# マダコ（外房）



- ・ 漁獲の多くは銚子・九十九里～外房で、たこつぼ、沖合底曳網などで漁獲される。
- ・ 広く回遊する群と地先に生息する群が存在し、広く回遊する群が漁獲量の大半を占める。
- ・ 漁獲盛期は12月～4月。

## 資源評価

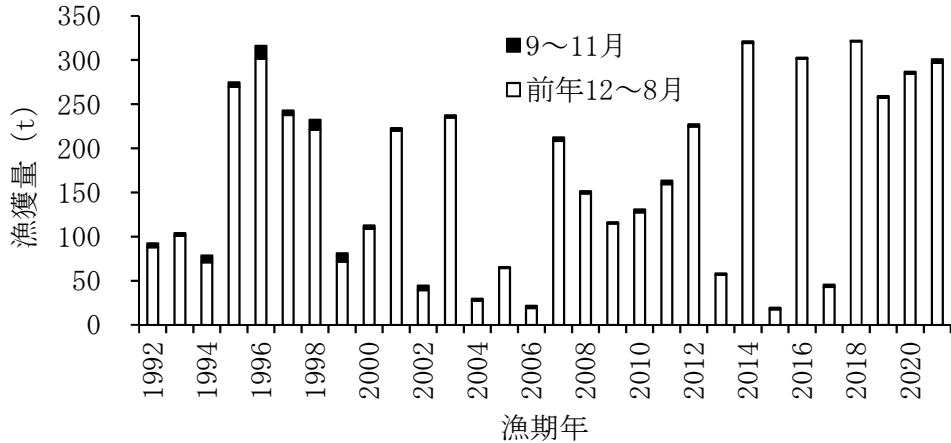
水準：高位



動向：増加



## 漁獲量



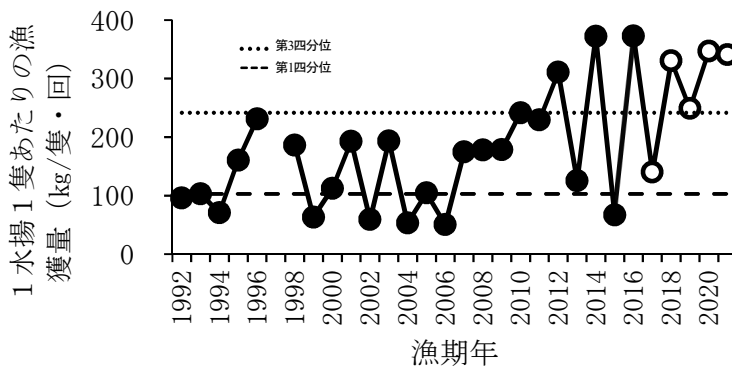
千葉県におけるマダコ漁期年別漁獲量の経年変化 (千葉県調べ。年は漁期年：前年12月～11月。)

- ・ 千葉県全体の漁獲量は年ごとに大きく変動している。
- ・ 漁獲量は資源量その他、海況による回遊経路や時期の変動、茨城県以北の漁獲量等に影響を受けて変動すると考えられる。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。  
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

## 資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、外房 A 漁協におけるたこつぼ漁業の1992年以降のCPUE(1水揚1隻当たりの漁獲量)で判断した。
- ・ 変動が激しいが、2021年の資源水準は過去30年間で高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。



外房 A 漁協におけるたこつぼ漁業の CPUE (1水揚1隻当たりの漁獲量) の経年変化  
※ 年は漁期年 (前年12月～8月), 1997年は隻数データ不明のため欠測。

## 資源管理の取り組み

- ・ たこつぼ漁業の漁業許可方針で、海域ごとに操業隻数・期間が定められている。